

食品ロスに関するアンケート調査について

意向調査の名称	食品ロスに関するアンケート
調査の目的	食品ロスに関するアンケート調査を実施し、食品ロスの発生量や削減に向けた課題を把握するとともに、本計画に定める取組を検討する基礎資料とするために実施しました。
調査の方法	郵送
調査対象者 回答者数	・ 市民 3,000 人抽出 回答：945 人（回答率：31.5%） ・ 事業所 500 か所抽出 回答：185 事業所（回答率：37.0%） 注：アンケートの集計におきましては、小数点以下の端数処理により、内訳の和と合計値が一致しない場合があります。
実施期間	令和4年7月 ～ 令和4年8月
担当課	環境事業課
調査結果の概要	別添のとおり

(注) 調査の集計に当たり、「無回答」及び「わからない」を除き、調査結果を取りまとめました。

1 食品ロスという言葉の認知度と正しい理解について

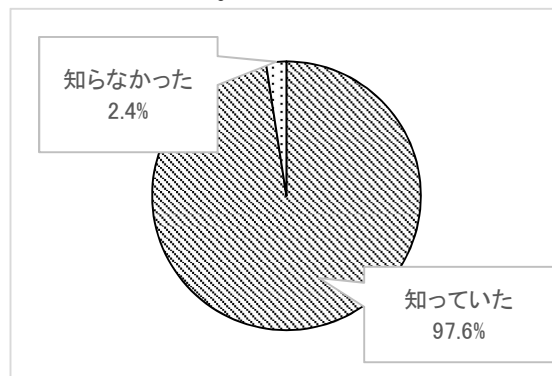
(1) 市民向けアンケート

「あなたは、「食品ロス」という言葉を知っていましたか。」の設問について、「知っていた」と回答した割合が97.6%であったのに対し、「知らなかった」と回答した割合が2.4%となっています。

一方で、「あなたは、「食品ロス」の意味を正しく理解していましたか。」の設問について、「理解していた」と回答した割合が80.1%であったのに対し、「理解していなかった」と回答した割合が19.9%となっています。

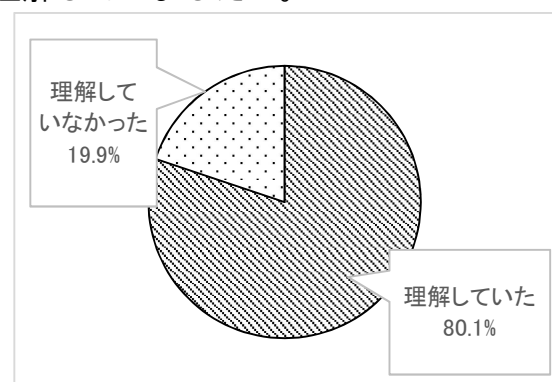
あなたは、「食品ロス」という言葉を知っていましたか。

	回答数	知っていた	知らなかった
全体	943	97.6%	2.4%
男性	342	96.2%	3.8%
女性	590	98.3%	1.7%
その他	2	100.0%	
答えたくない	9	100.0%	



あなたは、「食品ロス」の意味を正しく理解していましたか。

	回答数	理解していた	理解していなかった
全体	936	80.1%	19.9%
男性	337	76.9%	23.1%
女性	588	82.0%	18.0%
その他	2	50.0%	50.0%
答えたくない	9	88.9%	11.1%



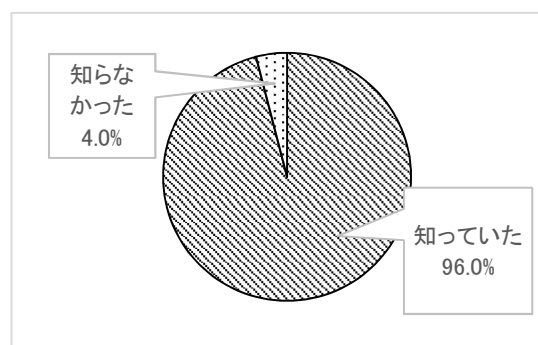
(2) 事業所向けアンケート

「貴事業所は、「食品ロス」という言葉を知っていましたか。」の設問について、「知っていた」と回答した割合が96.0%であったのに対し、「知らなかった」と回答した割合が4.0%となっています。

一方で、「貴事業所は、「食品ロス」の意味を正しく理解していましたか。」の設問について、「理解していた」と回答した割合が86.1%であったのに対し、「理解していなかった」と回答した割合が13.9%となっています。

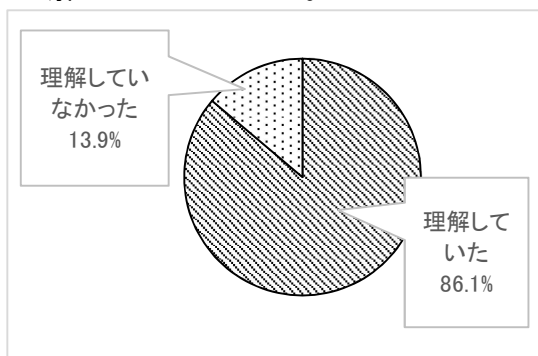
貴事業所は、「食品ロス」という言葉を知っていましたか。

	回答数	知っていた	知らなかった
全体	173	96.0%	4.0%



貴事業所は、「食品ロス」の意味を正しく理解していましたか。

	回答数	理解していた	理解していなかった
全体	166	86.1%	13.9%



2 生ごみと食品ロスの割合について

(1) 市民向けアンケート

「あなたの世帯から出るもえるごみの中で、生ごみの割合はどのくらいですか。」の設問について、「1割程度」と回答した割合が32.0%と最も多く、「2割程度」と回答した割合が21.6%、「3割程度」と回答した割合が20.1%、「4割程度」と回答した割合が7.7%、「5割程度」と回答した割合が8.2%、「6割以上」と回答した割合が10.5%となっており、3割程度以下が4分の3近くになっています。

また、「生ごみの中に、どのくらい食品ロスが含まれていますか。」の設問について、「1割程度」と回答した割合が73.4%と最も多く、「2割程度」と回答した割合が12.7%、「3割程度」と回答した割合が6.7%、「4割程度」と回答した割合が2.2%、「5割程度」と回答した割合が2.7%、「6割以上」と回答した割合が2.3%となっています。

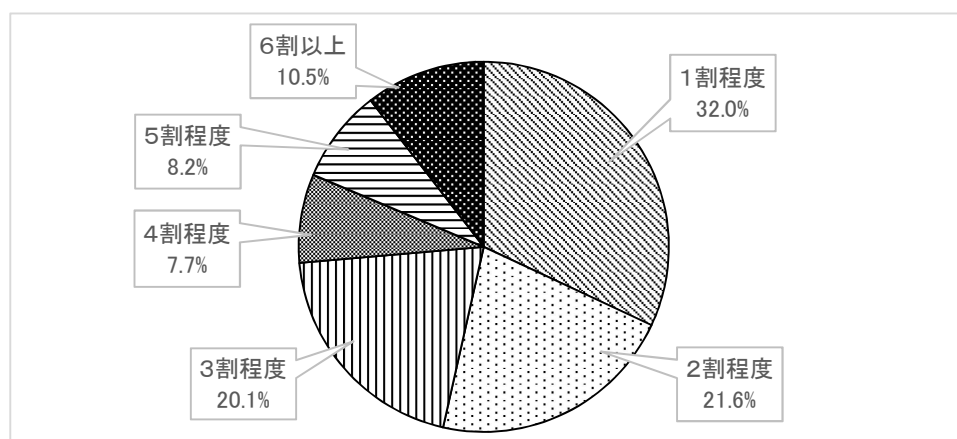
一方で、本市が令和元（2019）年度から令和4（2022）年度まで実施してきている家庭系もえるごみの組成分析結果では、厨芥類（生ごみ）の割合は48.6%、その中で、食べ残しが7.9%、未開封食品が8.7%、過剰除去が2.4%、合計すると19.0%が食品ロスとなっています。厨芥類（生ごみ）に占める食品ロスの割合は

39.1%との分析結果となっており、アンケート結果における自己分析と実態として

の組成分析結果に大きな乖離かいりが見られます。

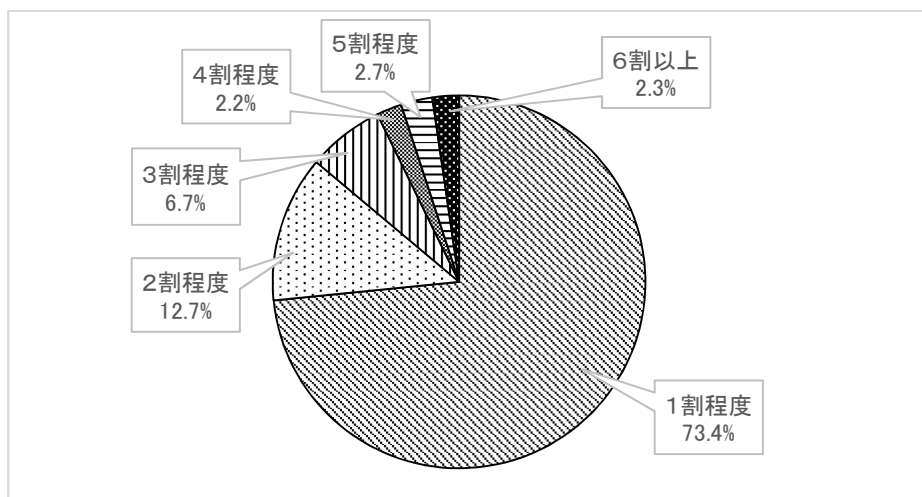
あなたの世帯から出るもえるごみの中で、生ごみの割合はどのくらいですか。

	回答数	1割程度	2割程度	3割程度	4割程度	5割程度	6割以上
全体	917	32.0%	21.6%	20.1%	7.7%	8.2%	10.5%
男性	339	44.5%	18.3%	18.0%	4.4%	6.5%	8.3%
女性	568	24.5%	23.6%	21.3%	9.7%	9.3%	11.6%
その他	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
答えたくない	8	37.5%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%	25.0%

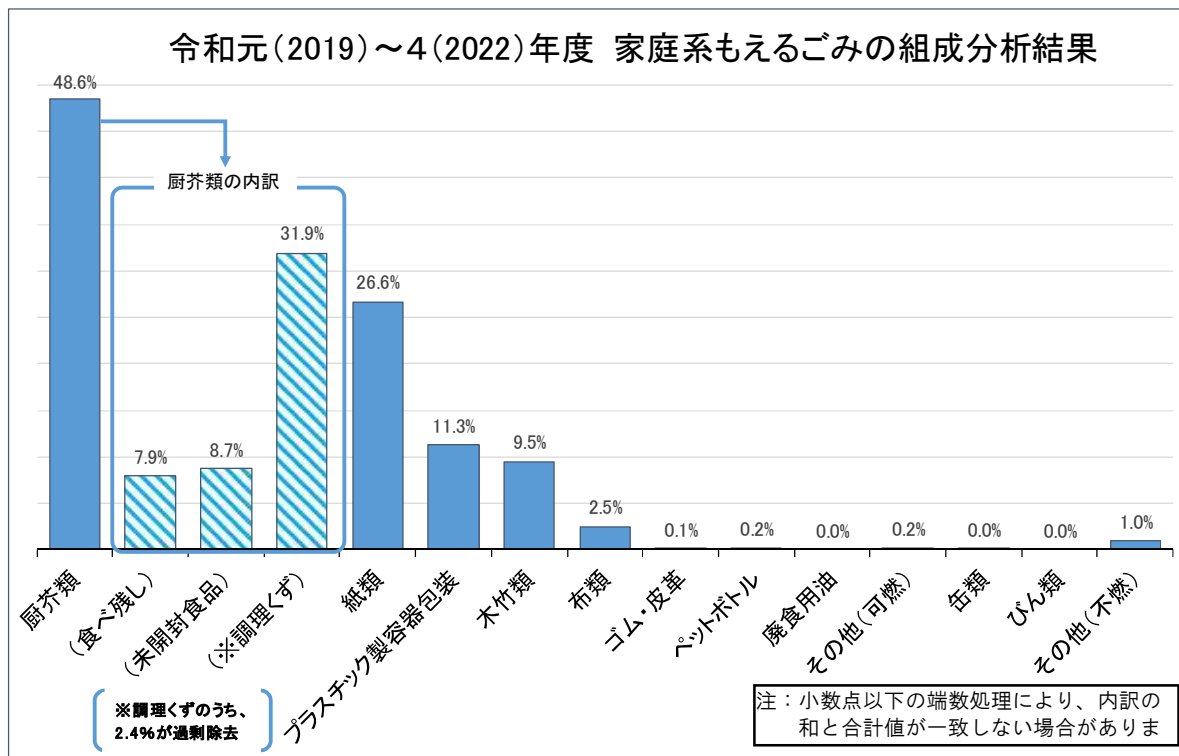


生ごみの中に、どのくらい食品ロスが含まれていますか。

	回答数	1割程度	2割程度	3割程度	4割程度	5割程度	6割以上
全体	914	73.4%	12.7%	6.7%	2.2%	2.7%	2.3%
男性	333	74.5%	12.0%	7.2%	2.4%	2.1%	1.8%
女性	571	72.7%	13.1%	6.3%	2.1%	3.2%	2.6%
その他	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
答えたくない	8	87.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%



令和元（2019）～4（2022）年度家庭系もえるごみの組成分析結果



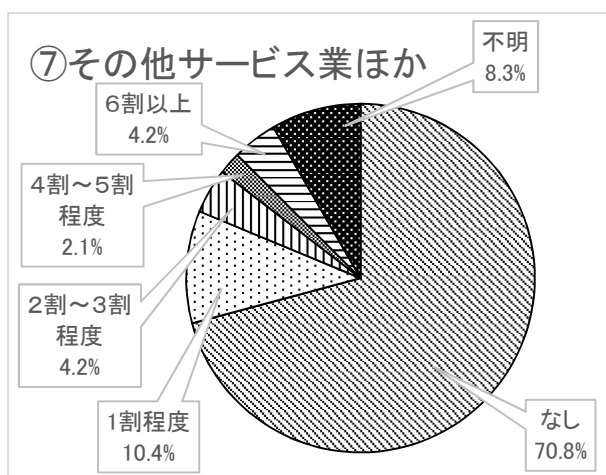
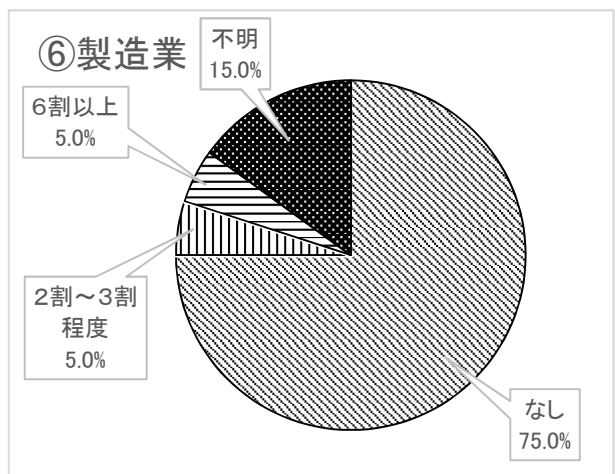
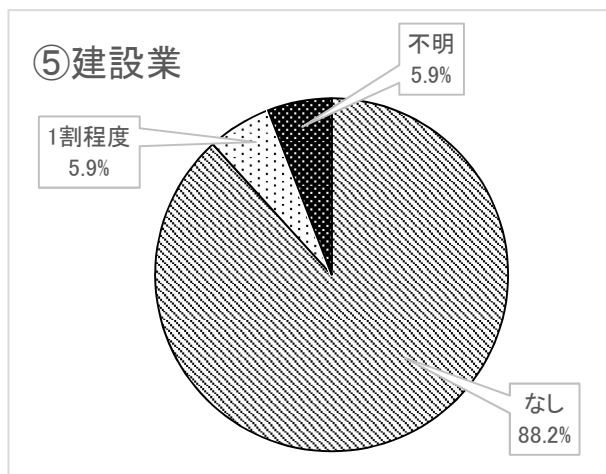
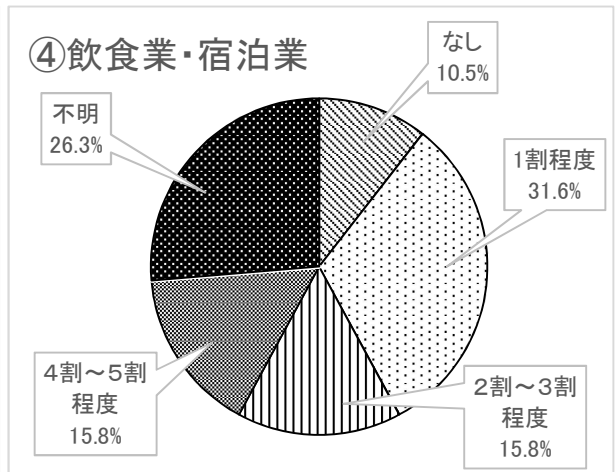
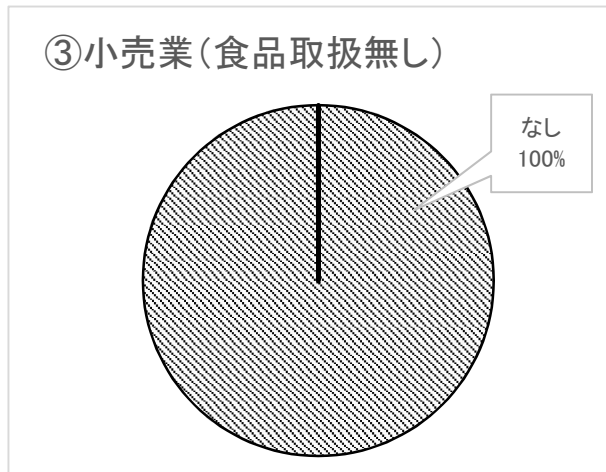
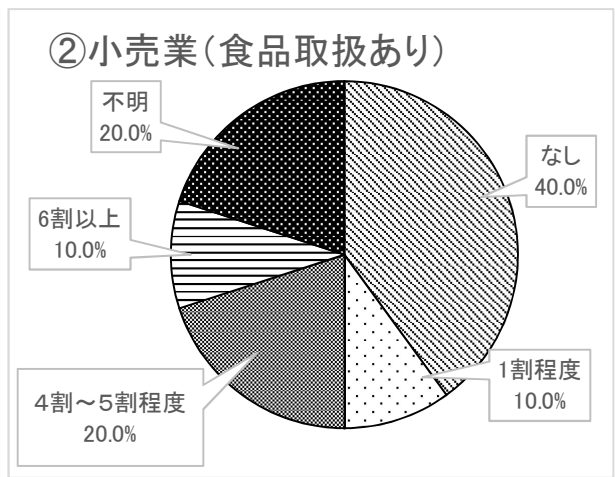
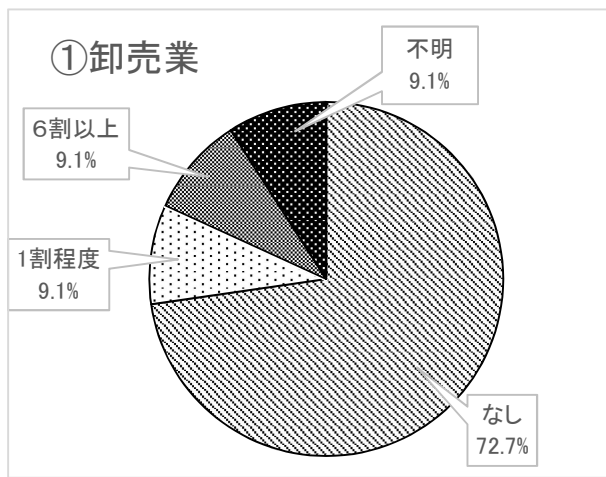
厨芥類：食べ残しや野菜くずなどの生ごみのこと
未開封食品：直接廃棄（手つかず食品）

(2) 事業所向けアンケート

「食品廃棄物の中で食品ロスの割合はどのくらいですか。」の設問について、食品ロスが発生しているのは、主に小売業（食品取扱あり）、飲食業・宿泊業であり、その他の業では低い割合にとどまっています。

食品廃棄物の中で食品ロスの割合はどのくらいですか。

	回答数	なし	1割程度	2割～3割程度	4割～5割程度	6割以上	不明
全体	137	65.7%	10.2%	4.4%	4.4%	3.6%	11.7%
①卸売業	11	72.7%	9.1%	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%
②小売業（食品取扱あり）	10	40.0%	10.0%	0.0%	20.0%	10.0%	20.0%
③小売業（食品取扱無し）	12	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
④飲食業・宿泊業	19	10.5%	31.6%	15.8%	15.8%	0.0%	26.3%
⑤建設業	17	88.2%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%
⑥製造業	20	75.0%	0.0%	5.0%	0.0%	5.0%	15.0%
⑦その他サービス業ほか	48	70.8%	10.4%	4.2%	2.1%	4.2%	8.3%



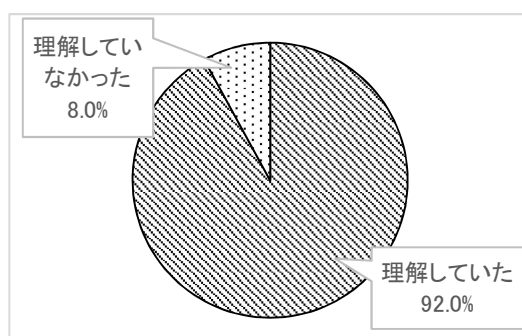
3 「賞味期限」と「消費期限」の理解と消費行動について

市民向けアンケートにおいては、「あなたは、「賞味期限」と「消費期限」の意味を正しく理解していましたか。」の設問について、「理解していた」と回答した割合が92.0%であったのに対し、「理解していなかった」と回答した割合が8.0%となっています。また、「あなたは、賞味期限が過ぎた食品を食べますか。」の設問についても、89.8%が「食べる」、「あなたは、消費期限が過ぎた食品を食べますか。」の設問についても、50.0%が「食べる」と回答しています。

一方で、「あなたは、まだ食べられる食品を廃棄したことがありますか。」の設問については、「ある」と回答した割合が50.0%、「あなたの世帯の食品ロスの内容はどのようなものですか。(複数選択可)」の設問には、「直接廃棄」と回答した割合が53.1%と、4つの選択肢の中で最も高い割合となっており、賞味期限・消費期限切れの食品が廃棄されていることがうかがえます。また、「あなたが今、食品ロス削減のために取り組んでいることがありますか。(複数選択可)」の設問については、「食品を購入する際は、手前の賞味期限・消費期限の短いものから購入する。(てまえどり)」と回答した割合が19.0%にとどまるなど、理解と消費行動には乖離が見られます。

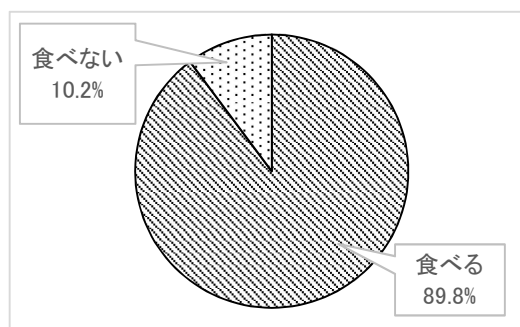
あなたは、「賞味期限」と「消費期限」の意味を正しく理解していましたか。

	回答数	理解していた	理解していなかった
全体	941	92.0%	8.0%
男性	343	90.1%	9.9%
女性	587	93.4%	6.6%
その他	2	50.0%	50.0%
答えたくない	9	88.9%	11.1%



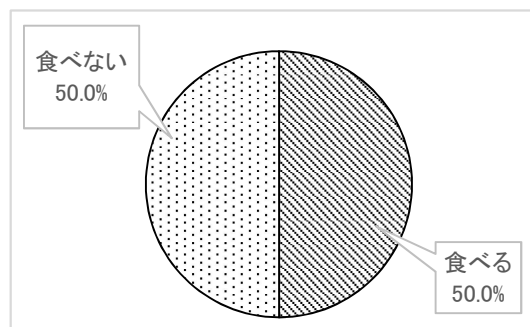
あなたは、賞味期限が過ぎた食品を食べますか。

	回答数	食べる	食べない
全体	941	89.8%	10.2%
男性	341	88.0%	12.0%
女性	589	90.8%	9.2%
その他	2	100.0%	0.0%
答えたくない	9	88.9%	11.1%



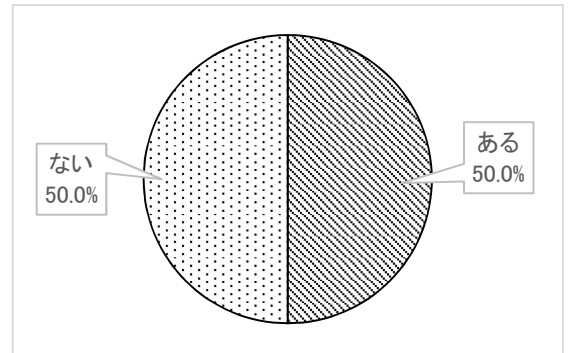
あなたは、消費期限が過ぎた食品を食べますか。

	回答数	食べる	食べない
全体	934	50.0%	50.0%
男性	340	46.5%	53.5%
女性	583	51.5%	48.5%
その他	2	50.0%	50.0%
答えたくない	9	88.9%	11.1%



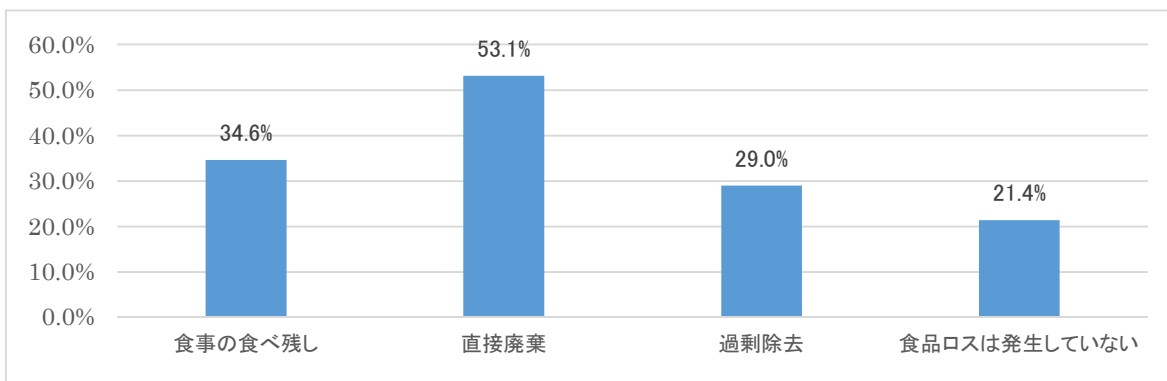
あなたは、まだ食べられる食品を廃棄したことがありますか。

	回答数	ある	ない
全体	939	50.0%	50.0%
男性	342	46.5%	53.5%
女性	586	51.5%	48.5%
その他	2	50.0%	50.0%
答えたくない	9	88.9%	11.1%

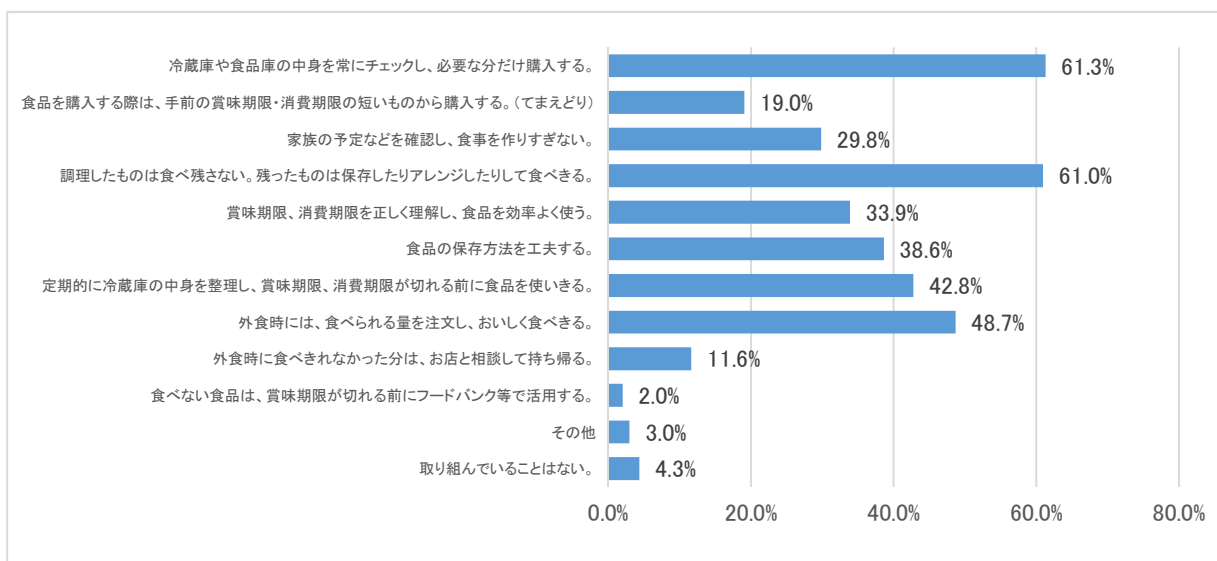


あなたの世帯の食品ロスの内容はどのようなものですか。(複数選択可)

	回答数	食事の 食べ残し	直接廃棄	過剰除去	食品ロスは 発生してい ない
全体	945	34.6%	53.1%	29.0%	21.4%
男性	344	29.1%	48.3%	28.8%	27.3%
女性	590	38.3%	56.1%	29.3%	17.5%
その他	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
答えたくない	9	11.1%	33.3%	22.2%	55.6%



あなたが今、食品ロス削減のために取り組んでいることがありますか。(複数選択可)



4 市民の消費行動と事業者の取組について

市民向けアンケートにおいては、「あなたが今、食品ロス削減のために取り組んでいることがありますか。(複数選択可)」の設問について、「冷蔵庫や食品庫の中身を常にチェックし、必要な分だけ購入する。」と回答した割合が61.3%、「調理したものは食べ残さない。残ったものは保存したりアレンジしたりして食べきる。」と回答した割合が61.0%と高い割合となっています。その一方で、「食品を購入する際は、手前の賞味期限・消費期限の短いものから購入する。(てまえどり)」と回答した割合が19.0%、「外食時に食べきれなかった分は、お店と相談して持ち帰る。」と回答した割合が11.6%、「食べない食品は、賞味期限が切れる前にフードバンク等で活用する。」と回答した割合が2.0%と低い割合となっています。

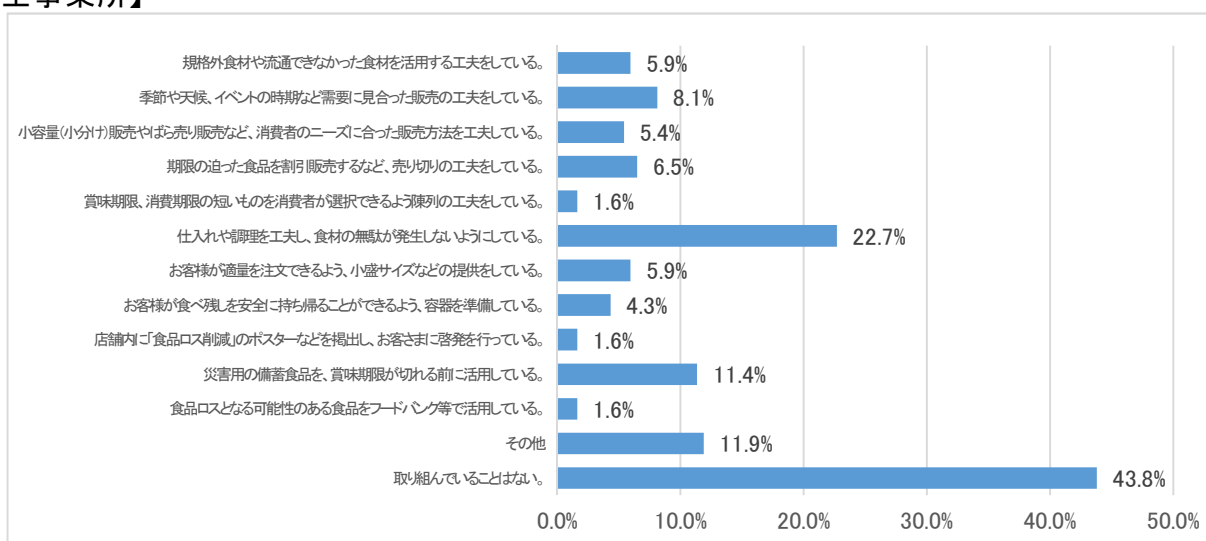
※8 ページ

「あなたが今、食品ロス削減のために取り組んでいることがありますか。(複数選択可)」を参照

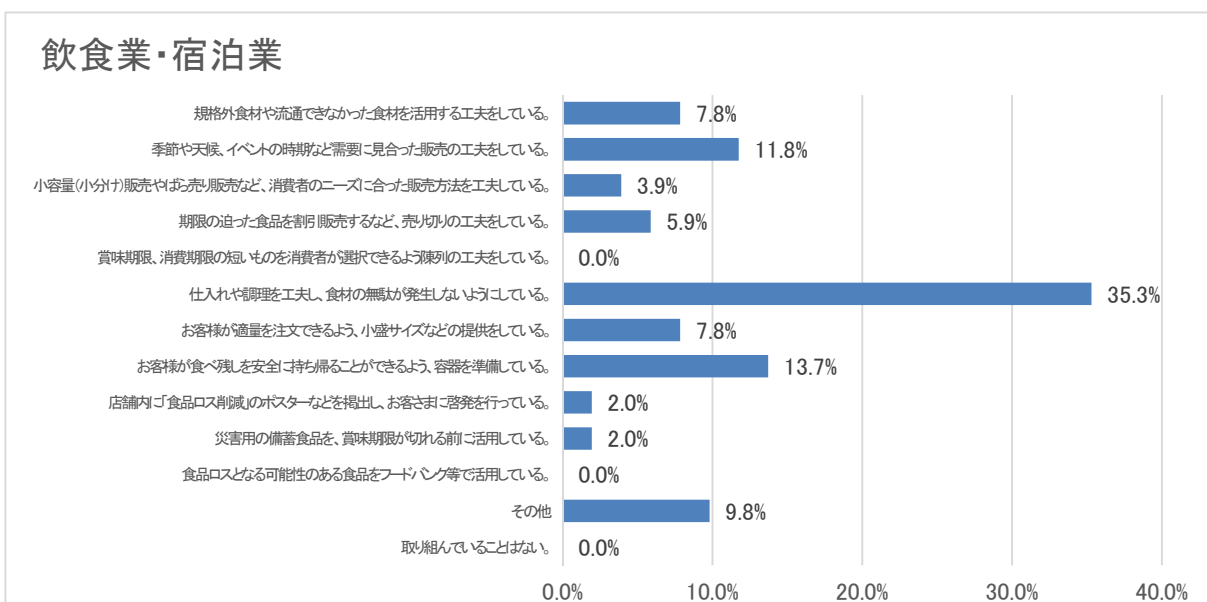
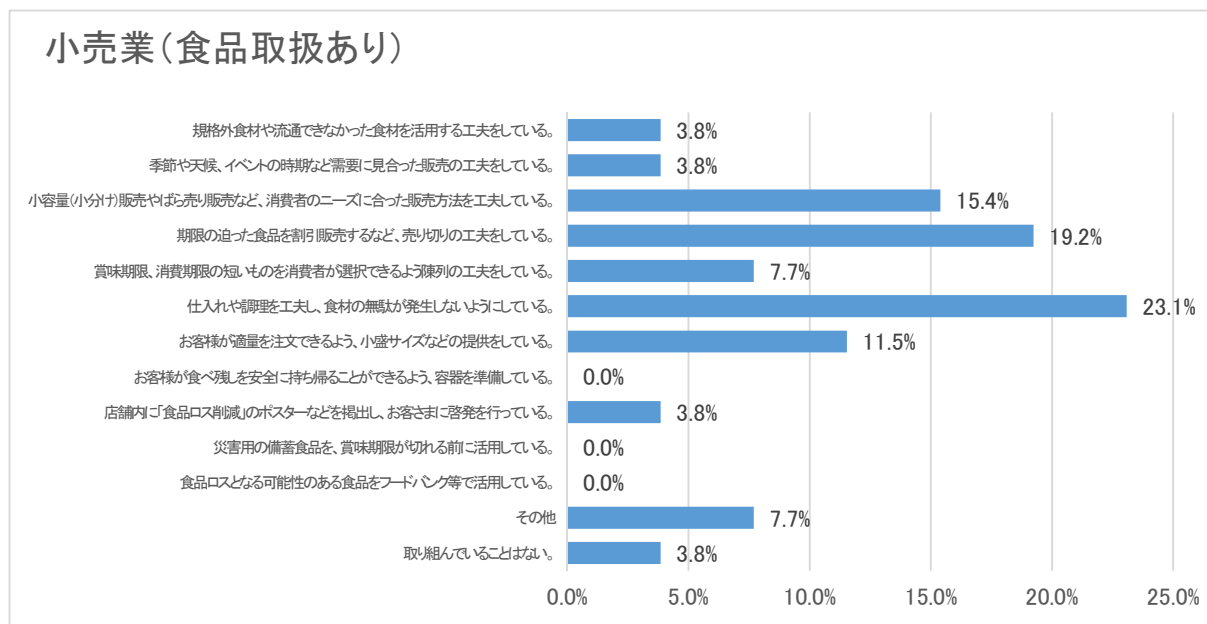
一方、事業所向けアンケートにおいては、特に食品ロスの発生が多い小売業(食品取扱あり)、飲食業・宿泊業の業種別の結果において、「貴事業所が今、食品ロス削減のために取り組んでいることがありますか。(複数選択可)」の設問について、**小売業(食品取扱あり)**では、「賞味期限、消費期限の短いものを消費者が選択できるよう陳列の工夫をしている。」と回答した割合が7.7%、「小容量(小分け)販売やばら売り販売など、消費者のニーズに合った販売方法を工夫している。」と回答した割合が15.4%、**飲食業・宿泊業**では「お客様が適量を注文できるよう、小盛サイズなどの提供をしている。」と回答した割合が7.8%、「お客様が食べ残しを安全に持ち帰ることができるよう、容器を準備している。」と回答した割合が13.7%など、食品ロス削減への取組は、全般的に低い割合にとどまっています。

また、「食品ロスとなる可能性のある食品をフードバンク等で活用している。」と回答した割合が事業所全体で1.6%と低い割合となっています。

貴事業所が今、食品ロス削減のために取り組んでいることがありますか。(複数選択可) 【全事業所】



【業種別】



市民向けアンケートにおける「食品を購入する際は、手前の賞味期限・消費期限の短いものから購入する。(てまえどり)」、「外出時に食べきれなかった分は、お店と相談して持ち帰る。」と、事業者向けアンケートにおける、「賞味期限、消費期限の短いものを消費者が選択できるように陳列の工夫をしている。」、「お客様が食べ残しを安全に持ち帰ることができるよう、容器を準備している。」は共通の項目です。「店舗で取り組んでいないので消費者が行わない。」、「消費者が行わないので店舗が取り組まない。」という悪循環が生じています。

また、店舗における「お客様が適量を注文できるよう、小盛サイズなどの提供をしている。」に取り組んでいる割合が少ないために、消費者が食べ残しをしてしまうことにもつながっていると考えられます。